

第9章 施策の達成状況に関する評価手法

1. 定量的な目標

本計画の実現に向けて実施される各種施策の進捗状況及びその効果を確認し、より効果的に計画を実現していくため、以下のような目標を設定します。

①都市機能誘導区域における魅力向上のための目標

都市機能誘導区域における都市機能を充実させることで、拠点としての魅力が向上すると考え、都市機能誘導区域内での誘導施設の立地数を目標として設定します。

【中間評価（現況値）】

都市機能誘導区域内における新たな誘導施設の立地や休廃止は特にみられませんでしたが、引き続き、都市機能誘導区域内での誘導施設の誘導と維持を図ります。

基準値（平成22年）	現況（令和5年）	目標値（令和22年）
3施設	3施設	4施設

②市街地における生活環境の維持のための目標

居住誘導区域内の人口密度をある程度維持することで都市機能の立地が可能となり、利便性の高い生活環境が維持できると考え、居住誘導区域の人口密度を目標として設定します。

このまま推移した場合の人口密度は、約42人/ha程度にまで減少することが予想されますが、都市機能や居住の誘導により、目標年における人口密度として50人/haを目指します。

【中間評価（現況値）】

町全体の人口は減少傾向が続いていますが、居住誘導区域の人口は若干の増加がみられました。引き続き、居住誘導区域の人口密度の維持を図ります。

基準値（平成22年）	現況（令和5年）	目標値（令和22年）
約64人/ha※	約66人/ha	約50人/ha (約42人/ha)

※市街化区域人口は都市計画年報より。居住誘導区域は工業地域を除く市街化区域面積（ ）内の数値は、今のまま推移した場合の予測値

③持続可能な公共交通ネットワークのための目標

公共交通の利用者数をある程度維持することで、現状のサービス水準が維持できると考え、結崎駅における1日当たり平均利用者数（乗降客数）を目標として設定します。

このまま推移した場合の利用者数は、約2,900人程度にまで減少することが予想されますが、駅の周辺への居住誘導や集客施設の維持・誘導等の施策により、目標年における利用者数として約3,500人を目指します。

【中間評価（現況値）】

鉄道をはじめとした公共交通機関の利用者数は、ここ数年、新型コロナウイルスの影響を大きく受けました。結崎駅における1日当たり平均利用者数（乗降客数）も減少していますが、引き続き、駅の周辺への居住誘導や集客施設の維持・誘導等の施策により、鉄道利用者数の維持を図ります。

<u>基準値（平成27年）</u>	<u>現況（令和5年）</u>	<u>目標値（令和22年）</u>
約4,000人	約 <u>3,600</u> 人	約3,500人 (約2,900人)

() 内の数値は、今のまま推移した場合の予測値

④防災まちづくりに関する目標

防災指針に基づく取組の進捗状況を評価する指標及び目標値を、以下のように設定します。

<u>指標</u>	<u>基準値 (令和5年)</u>	<u>目標値 (令和22年)</u>
<u>内外水対応型の遊水地の整備地区数</u>	<u>0地区</u>	<u>2地区</u>
<u>浸水被害防止区域の指定状況</u>	<u>未指定</u>	<u>指定完了</u>
<u>貯留機能保全区域の指定状況</u>	<u>未指定</u>	<u>指定完了</u>
<u>災害訓練の実施数</u>	<u>0回</u>	<u>1回/年</u>
<u>防災情報メールの登録者数</u>	<u>700人</u>	<u>1,100人</u>

2. 期待される効果

目標達成により期待される効果は下記のとおりです。

<u>期待される効果</u>	<u>基準値（令和4年）</u>	<u>目標値（令和22年）</u>
<u>川西町のことを住みやすいと感じている人が増える</u>	<u>22.8%</u>	<u>30%</u>

3. 計画の評価と見直し方針

評価のプロセスについては、Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(見直し)のPDCAサイクルを基本とした進行管理を行うこととし、本計画策定後、概ね5年ごとに、調査、分析評価を行い、本計画の進捗状況や妥当性等を検討します。

また、川西町第3次総合計画の進捗とも整合を図るため、総合計画の目標年である令和8年にあわせて計画の見直しを行うこととします。

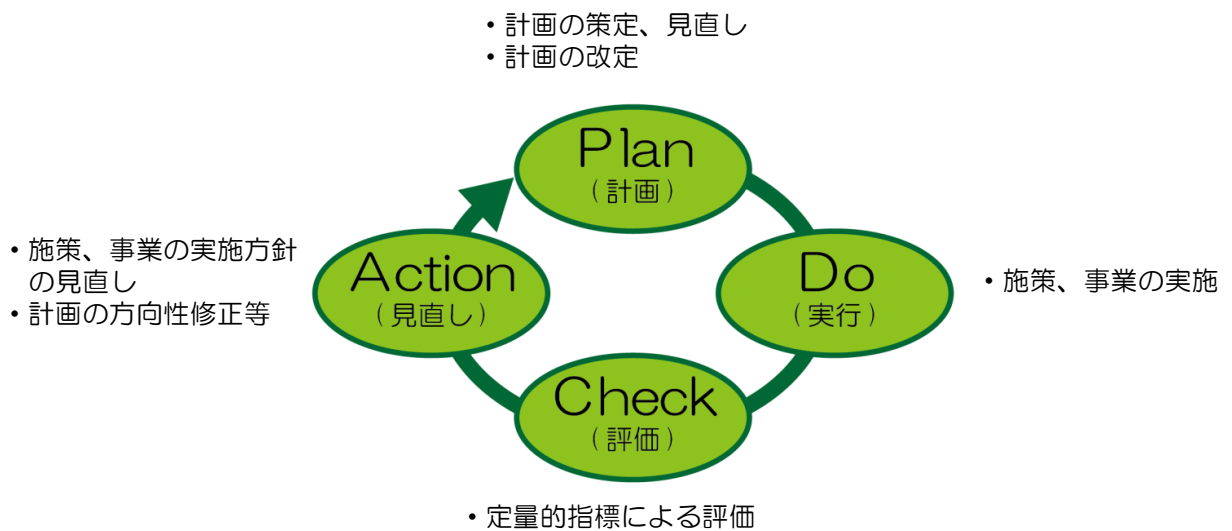


図9-1 PDCAサイクルによる進行管理のイメージ